

千葉県
食の安全に関する
リスクコミュニケーション育成講座
2013.2.20
千葉県教育会館

コーチ 齋藤明子
京都大学大学院医学研究科専門職学位課程
社会健康医学系専攻 健康情報学分野

Akiko Saito. 2013.2.20

1

この講座の目指すところ

- リスクコミュニケーションの概要について知識を得る。
 - リスクコミュニケーションにおけるファシリテーションの位置づけを理解する。
 - ファシリテーションとは何かについて基本を理解する。
- 県民対象の小グループでの話し合いがファシリテートできるようになる！

Akiko Saito. 2013.2.20

2

今日のアウトライン(予定です)

リスクコミュニケーションとは
ファシリテーションとは
「場」づくりとは
聴くこと
尋ねること
整理すること
ワークショップ説明と体験

本日のルール(グラドルール)

- ・積極的に聴く
- ・発言しよう!
- ・照れずに役割を担ってみよう!
- ・どの意見も、すべてが間違っていることはない。
- ・振返りの時間を大切に。

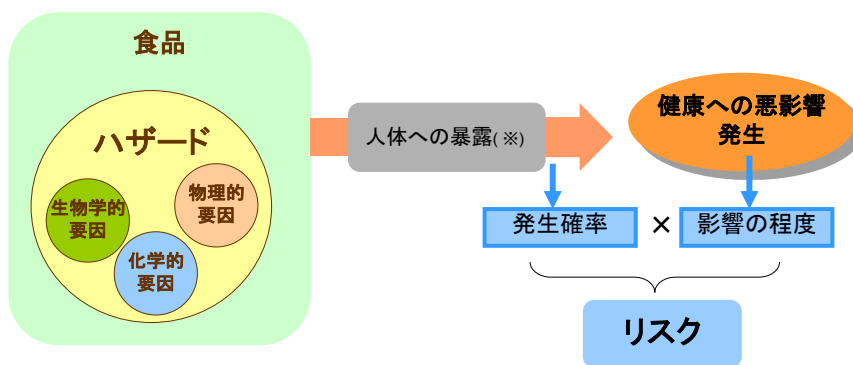
リスクコミュニケーションとは

Akiko Saito. 2013.2.20

5

リスク Risk

- 食品中に**ハザード**が存在する結果として生じる人の健康に悪影響が起きる可能性とその程度(健康への悪影響が発生する確率と影響の程度)。



※暴露:ハザードの摂取

ハザード:人の健康に危害を及ぼす可能性のある食品中の物質または食品の状態

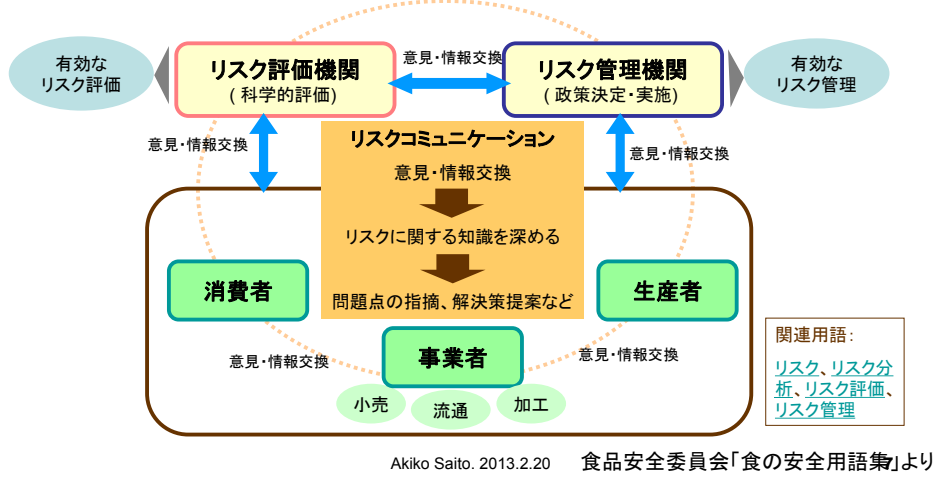
Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会「食の安全用語集」より

リスクコミュニケーション

Risk Communication

- リスク分析の全過程において、リスク管理機関、リスク評価機関、消費者、生産者、事業者、流通、小売りなどの関係者がそれぞれの立場から相互に情報や意見を交換すること。
- リスクコミュニケーションを行うことで、検討すべきリスクの特性やその影響に関する知識を深め、リスク管理やリスク評価を有効に機能させることができる。



リスクコミュニケーションの発達段階

発達段階	関心の中心と目的	特徴と問題点
第1段階 データの開示	専門的な情報提供、開示、 広報	情報提供されるが、専門的な情報をそのまま説明しても、良く理解されず、受入れられることは少ない。
第2段階 情報の提供	教育、宣伝、解説、説得 手法に関心	情報発信者の意図が受入れられるようにメッセージを工夫するが、都合の良い点を強調する場合が多い。
第3段階 共通ベースと 意見交換	専門家と消費者が情報を共有し、相互に意思疎通を図る	説明するだけでなく、相手の意見を聞き、討議する。インフォメーションよりコミュニケーションの重視。

関沢純、化学 2001:54(1)27-30 改変

リスクが過大視される場合

リスク認知学の成果から

Bennett P, et al. Risk Communication and Public Health,
Oxford University Press, 2010

- 1. 意図せず受ける(大気汚染など)
 >意図して受ける(危険なスポーツや喫煙など)
- 2. 不平等な分布(ある人には利益、ある人には被害)
- 3. 各人で予防策をとっても逃れられないとき
- 4. なじみがなかったり、新たな原因から生じる
- 5. 天然より人為的な原因から起こる
- 6. 隠れていて非可逆的な損失(曝露後、何年も経って生じる疾患)
- 7. 子どもや妊婦といった将来世代に、より危害を引き起こす
- 8. 特に恐怖を呼び起こすのは、死亡、病気やけが
- 9. 匿名より身元確認できる被害者への損害
- 10. 信頼できる複数の情報源(あるいは「もっと悪い」と同じ情報源)から矛盾する報告が出ている

スロビック, 1987

Akiko Saito. 2013.2.20

9

では、実際、どのようなやりかたがあるか？

Akiko Saito. 2013.2.20

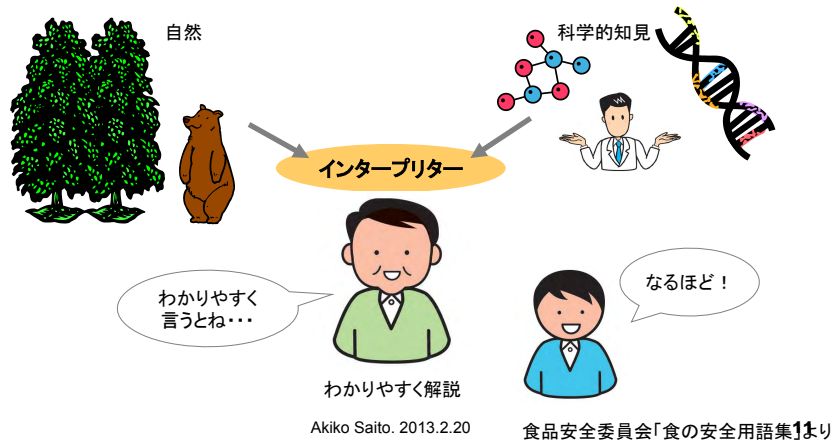
10

インタープリター

第2段階リスクコミュニケーション

Interpreter

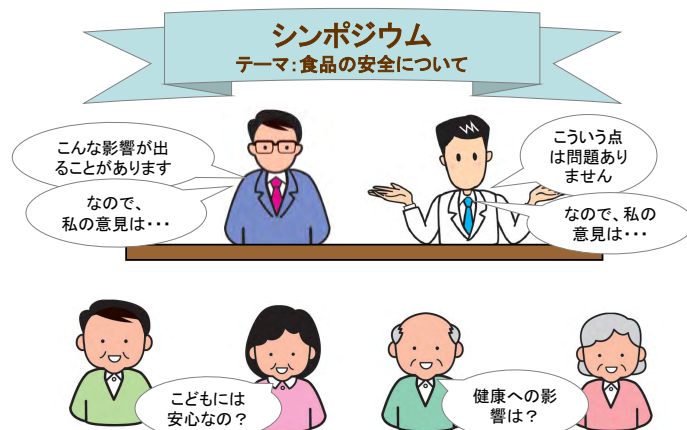
- 標準的な和訳では通訳者や解説者だが、一般的には自然や科学的知見を分かりやすく解説する能力を有する方。



シンポジウム

Symposium

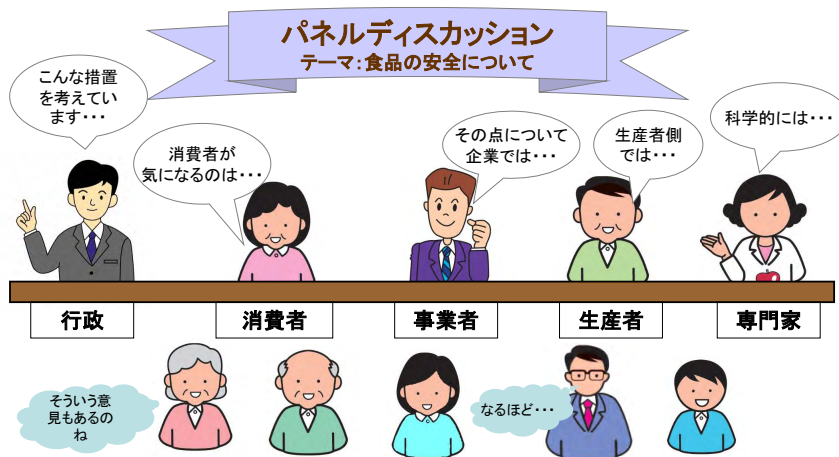
- 特定のテーマについて、複数の人が意見を述べ、参加者とそれに対する質疑応答を行う場。



パネルディスカッション

Panel Discussion

- あるテーマに関して、消費者、生産者、流通及び事業者、行政、専門家等の関係者や意見を持つ代表者らが、参加者の前で意見交換を行う形式。



Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会「食の安全用語集」より¹³

リスクコミュニケーションの発達段階

発達段階	関心の中心と目的	特徴と問題点
第1段階 データの開示	専門的な情報提供、開示、 広報	情報提供されるが、専門的な情報をそのまま説明しても、良く理解されず、受入れられることは少ない。
第2段階 情報の提供	教育、宣伝、解説、説得 手法に関心	情報発信者の意図が受入れられるようにメッセージを工夫するが、都合の良い点を強調する場合が多い。
第3段階 共通ベースと 意見交換	専門家と消費者が情報を 共有し、相互に意思疎通 を図る	説明するだけでなく、相手の意見を聞き、討議する。インフォメーションよりコミュニケーションの重視。

関沢純、化学 2001:54(1)27-30 改変

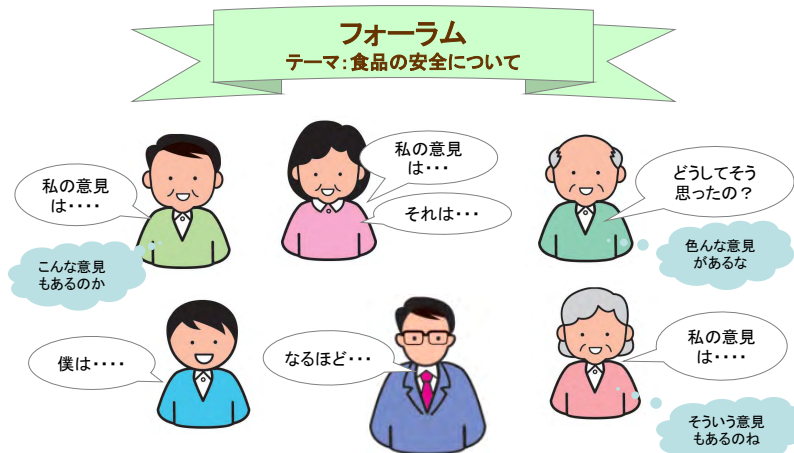
Akiko Saito. 2013.2.20

14

フォーラム

Forum

- テーマに沿って、参加者全員が意見や情報の交換・共有を行う形式。



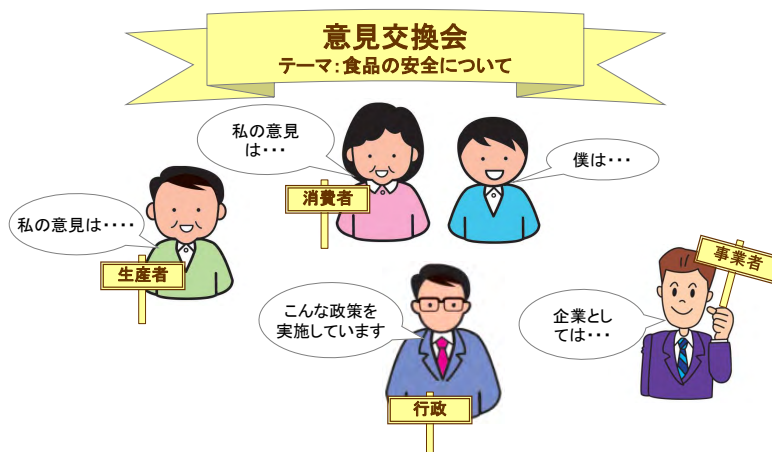
Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会「食の安全用語集」より

意見交換会

Public Meeting

- **リスクコミュニケーション**の手法の一つです。関係者が一堂に会し、情報・意見の交換を行います。



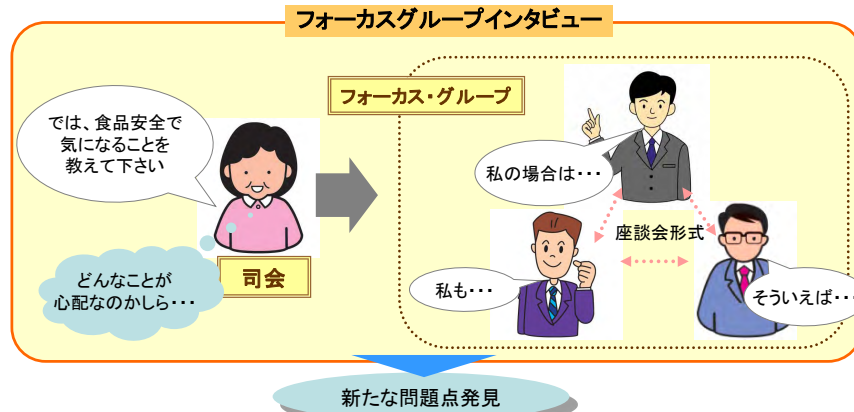
Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会「食の安全用語集」より

フォーカスグループインタビュー

Focus Group Interview Method

- 特に意見を聞きたいテーマについて、少数の集団(フォーカス・グループ)に対して、司会者の進行に沿って行う座談会形式の調査方法。
- 調査対象者が自由に発言することで、新たな問題点等を見出すことができる。



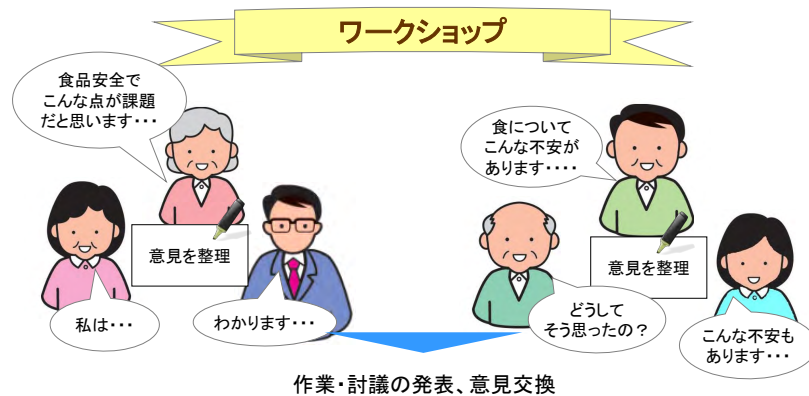
Akiko Saito. 2013.2.20

17

ワークショップ

Workshop

- 比較的小規模で開催されることが多い講習会や研究会。
- 参加者が共同で作業や討議を行いながら、技術等の向上を図る場。



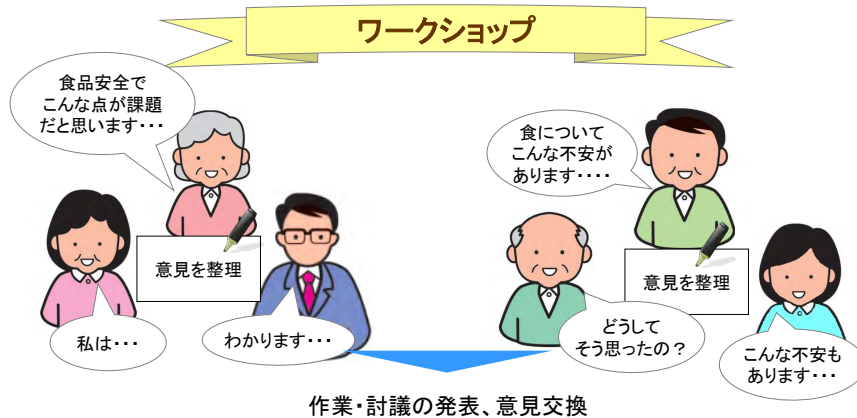
Akiko Saito. 2013.2.20

18
食品安全委員会「食の安全用語集」より

ワークショップ

Workshop

グループでの作業や討議をベースに、参加・体験型の手法により、学習、交流などを行う「場」



Akiko Saito. 2013.2.20

19

ワークショップ

■ キーワード: 体験・参加・グループ

■ 意義:

「ひとごと」から「自分ごと」……当事者意識の高まり

- ・自分たちで考えた、作った
- ・関係者である自覚
- ・責任を感じる
- ・
- ・

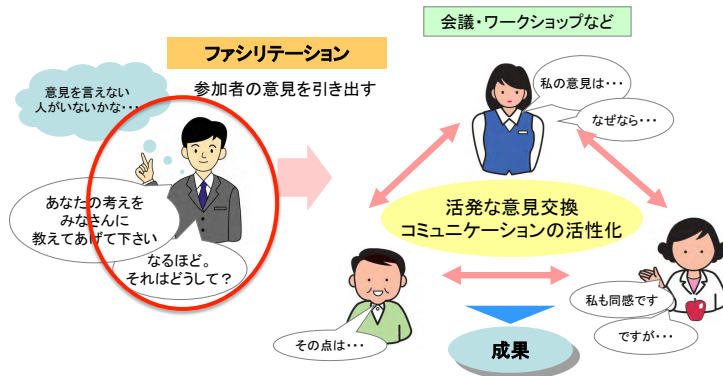
Akiko Saito. 2013.2.20

20

■ この講座では・・・

主として、県民の皆さんからの意見収集、意見交換を目的とした、小規模のワークショップや意見交換会を開催できる、リスクコミュニケーター育成を目的とします。

でもきっと、他にも役に立ちますよ……



ファシリテーションとは

■ ファシリテート facilitate
『促進する、容易にする、円滑にする、助長する、スムーズに運ばせる』

■ ファシリテーション facilitation

集団による知的相互作用を促進する働き

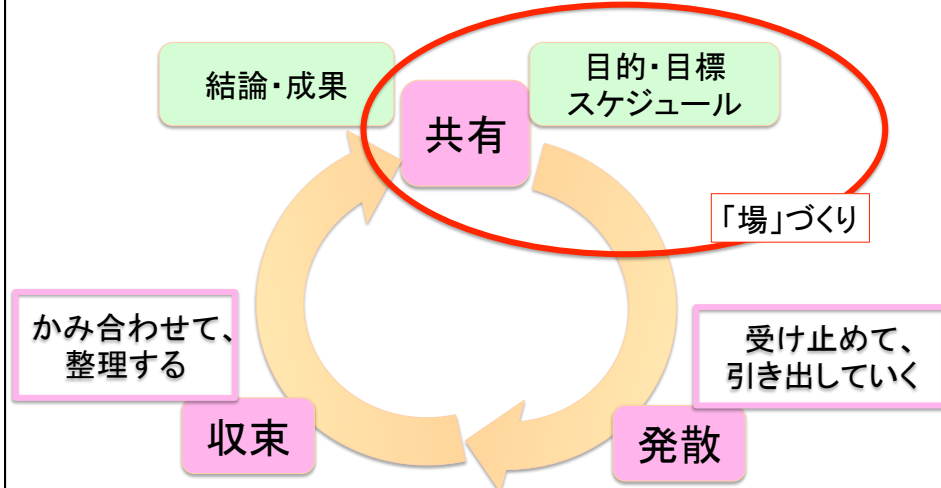
ファシリテーター

- 会議やワークショップの進行役
 - 常に中立な立場で
 - プロセスを管理し
 - 参加者のチームワークを引き出して
 - チームの成果が最大となるよう支援する

例えるなら・・・ **酵素**

人と人の間に起こる相互作用をおし進める

リスクコミュニケーションにおける 話し合い(意見交換・収集)のプロセスとファシリテーション



「場」づくり

- 目的、目標、対象者の設定
- 提供する情報の内容もここに
- プロセスのデザインとスケジュール・時間配分
(講演とグループワーク、パネルディスカッション・・・)
- 役割分担
- 和む「場」づくり、締まる「場」づくり
(机の配置、お菓子、音楽、アイスブレイク、グラドルール)

Akiko Saito. 2013.2.20

25

「場」づくり

- 目的、目標、対象者の設定 — 重要！

参考：意見交換会を運営・進行する場合に留意すべき事項

- 聴衆を知る
- 科学の専門家を巻き込む
- コミュニケーションの専門知識を確立する
- 信頼できる情報の発信源となる
- 責任を共有する
- 科学的判断と価値判断を区別する
- 透明性を確保する
- リスクを大局的に見る

* FAO/WHO 1999. The application of risk communication to food standards and safety matters.
Report of a Joint FAO/WHO Expert Consultation, Rome, 2-6 February 1998. Food and Nutrition Paper No.70.

Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会ホームページより

役割分担(目的、スタイル、規模により、調整)

- 開催責任者(プロデューサー)
- 進行役(ファシリテーター)
- 発表者(プレゼンター)
- 書記・記録(レコーダー)
- 時間管理(タイムキーパー)
- 参加者(メンバー)

アイスブレイク

アイスブレイクとは？

ー 緊張感を解いたり、話し合うきっかけをつくるための、ちょっとしたゲームやクイズ、運動などのこと。場を和ませる。

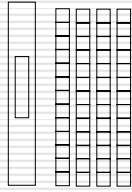
その効果は？

- ・体と心をほぐす
- ・互いに知り合う
- ・気づきを与える など

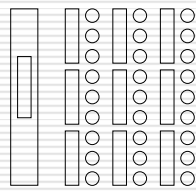
参考

ファシリテーション協会のHPには、たくさんのアイスブレイクが掲載されています。

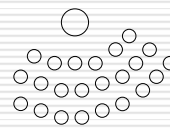
スペース



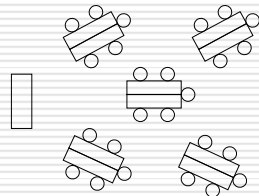
①劇場型・・・「開会式」や「オリエンテーション」に向く



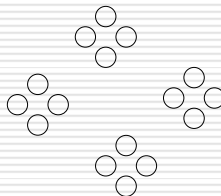
②スクール型・・・「講習」や「研修」のときに向く



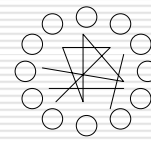
③扇型・・・参加者同士の顔が少し見えてくる。①②よりだけた雰囲気



④アイランド型・・・グループ作業



⑤分散型・・・少人数でのふりかえりや分かち合いなど。



⑥サークル型・・・参加者の一体感、相互作用が生まれやすい。



Akiko Saito. 2013.2.20

食品安全委員会ホームページより 29

グラドルール

- その「場」の決まりごと
- 目につくように貼り出しておく
- 例：
 - ・ひとりが話す時間は1分以内
 - ・人の話を遮らない
 - ・間違いというものは無い
 - ・どん欲に学ぶ
 - ・議論が止まったら休憩
 - ・終了5分前にはまとめに入る

Akiko Saito. 2013.2.20

30

ファシリテーターに必要なスキル

Akiko Saito, 2013.2.20

31

ファシリテーター型リスクコミュニケーターの 基本スキル

整理

「分析、見える化」=構造化

- ・議論を見通しつなげる
- ・かみ合わせ、整理する

傾聴

「聴いてもらえる」

- ・信頼感の醸成
- 安心して発言できる場の提供

質問

「引き出す、広げる、深める」

- ・考えてもらう、意見を引き出す
- ・可能性を広げ、絞り込み深める

観察

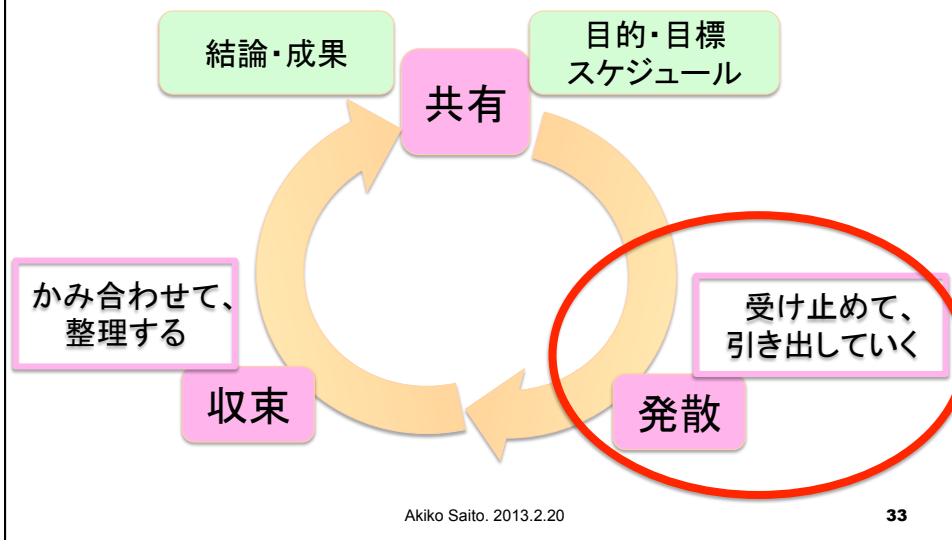
「何が起きているのか」

- ・場の変化、場の関係性を見抜く

Akiko Saito, 2013.2.20

32

リスクコミュニケーションにおける 話し合い(意見交換・収集)のプロセスとファシリテーション



傾聴 (active listening)

「聴いてもらえる」

- ・信頼感の醸成
→安心して発言できる場の提供

意識して、努めてできる

傾聴:きき方にもレベルがある

タイプ	きく内容	意識	対応
ヒアリング	聞こえてくる音	自分	なし
主観的 リスニング	自分に関係あること	自分	自分に関係あることに反応 説教、説得、助言、 自説の披露
客観的 リスニング	表現されていることすべて 言葉・声 身体の動き(ボディランゲージ)	相手	伝え返す テープレコーダーバック ポイントバック 聴いているというシグナル
価値観 リスニング	表現されていないこと 価値観 大切にしていること	相手	確認

傾聴

Akiko Saito. 2013.2.20

35

傾聴と沈黙

会議、会話で沈黙があると、ついつい自分が話し続けてしまいがち。

沈黙にも意味があります。

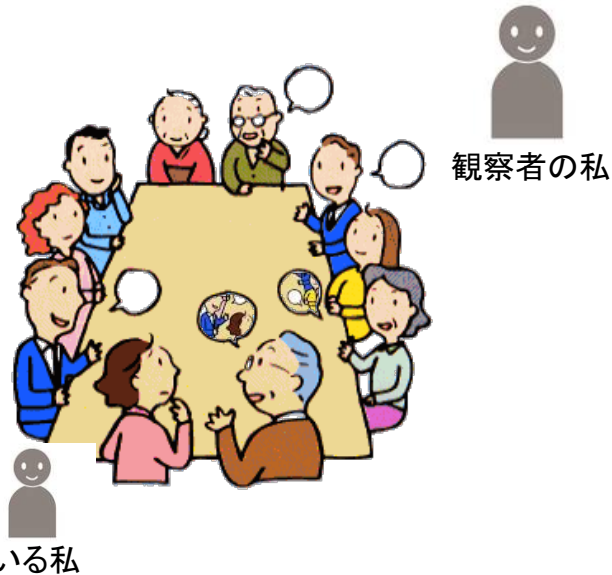
- ①どう答えるか、頭の中で構成している。
- ②その問いから逃げたい。
- ③次の問いを待っている・・・受け身

ちょっと、待ってみましょう。

Akiko Saito. 2013.2.20

36

観察



Akiko Saito. 2013.2.20

37

質問 - 意見を引き出す、考えを深める

	オープン・クエスチョン (開いた質問)	クローズド・クエスチョン (閉じた質問)
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対しての答え方は自由で、「はい」「いいえ」では答えられない。 ・相手に考えさせたいとき ・話し手の思考をオープンにし、会話に広がりや深まりを持たせられる。 ・5W1H 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に「はい」「いいえ」のみで答えられる。 ・限定的 ・聞く側の都合で、何か確認したいとき ・相手の口が重いとき ・論点を絞りたいとき ・決断を迫りたいとき
例	<ul style="list-style-type: none"> ・食について心配なことは何ですか？ ・いつからそのことが気になり始めましたか？ ・どこで情報が得られますか？ ・誰とそのことを話しましたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組み換え食品について、不安に思いませんか？ ・それを買いますか？

- ・オープン→クローズド: 当たりをつけてから絞り込み・深堀り
- ・クローズド→オープン: 範囲を絞り、本質に迫る
- ・クローズド→クローズド: 話を絞る、曖昧な発言の真意を探る
- ・オープン→オープン: ブレインストーミングなど話を創造的に広げる

Akiko Saito. 2013.2.20 参考「ファシリテーション入門」(堀公彦など)

質問 – 意見を引き出す、考えを深める

視点を交える

- それは事実でしょうか？
- 違う見方はできませんか？
- ●○○という可能性は無いですか？
- では、どのような問題点がありますか？

掘り下げる

- 具体的に説明していただけますか？
- どうすれば可能になりますか？
- 例えどどのようなことが考えられますか？

確認する

- それは×××ということですね。
- つまり、●○○ということよろしいでしょうか？
- 原因は△△ですね。

リスクコミュニケーションの情報収集の2タイプ

スキャン型

モニター型

整理

「分析、見える化」=構造化のスキル

- ・主張の明確化:
漠然とした意見を小さく絞り明確にする
— 箇条書きしていく
- ・議論の全体像をつかむ:
それぞれの意見の関係性を明らかにしていく
— 並び替え、結びつけ、比較する
- ・さまざまな視点から考える:
意見やアイデアにもれはないか?
— 疑う質問

議論の見える化

ファシリテーショングラフィック:
議論の内容を言葉や図形を使ってわかりやすく書き留めていく

「書く」ことで……

- ・「見える」化できる
 - 話合いのポイントがわかりやすくなり、意識も集中
 - 意見がかみ合いやすくなる
 - 伝わったか確認でき、共通の認識がもちやすくなる
 - 発想が刺激され、活性化する
 - 発言と発言者が切り離され、客観性が高まる

ワークショップを体験

付箋を使ったワークショップ

付箋

意見を書き出す！ 思いを文字に

- ①色は？ー普通は1色。他の色は意味があれば使うが、後に残しておく。
- ②大きさは？ー7.5センチ四方が使いやすい。
- ③ペンは？ー太めのものが良い。鉛筆、ボールペンはNG。
- ④どんな風を書く？ーキーワードを大切にし、要点を簡潔に！
- ⑤無記名・記名(サイン、イニシャル)を使い分けて。

模造紙
ホワイトボード

整理する！ 皆でわいわいと

同じ意味の島ものをまとめていく。

- ①始めにひとりが内容を読み上げて場に出す。
- ②似たような意味の付箋を読み上げながら場に出しグルーピング
- ③途中で疑問が湧けば、さらに付箋に書いて付け足す
- ④グループごとにタイトルを付けていく
- ⑤並べ替え、囲ったり、矢印をつけ、関係がわかるように

他人の意見を否定・避難しない
無理にグループにしない、

題名、グループ名
日付、参加者



発表する！ 意見を分かち合う

・役割と時間管理

付箋を使った話し合い

付箋……いわゆるポストイット

【大まかな流れ】

(グループで)

1) 企画者一全員

・トピックと目的を決める

・問いをつくる

・役割を決める

2) 話題提供

3) 意見交換

・各人で付箋に意見などを記入

・模造紙あるいはホワイトボードを用意する

・皆で分類・整理。ファシリテーターはこれを促進する役割。

・それぞれの島の意見をまとめ、名前をつけていく

やってみましょう！

【想定している場面】

振返り

Akiko Saito. 2013.2.20

47

リスコミ関連情報提供

情報をつくるときに

Akiko Saito. 2013.2.20

48

サイエンスコミュニケーション

- サイエンスコミュニケーション(英: science communication):

科学について、科学者ではない一般市民と対話すること。

科学コミュニケーションとも呼ばれる。

この活動は科学者によって行われることがあり、そのためアウトリーチ活動と混同されることもあるが、サイエンスコミュニケーション自体がひとつの研究分野にもなっている。科学社会学あるいは科学技術社会論の研究者がこの分野の研究を行っている他、科学史やメディア論、心理学、社会学や文学の研究者も参入している。

新規開発食品などとは関連が深い

- 「サイエンスコミュニケーション」という語は非常に広い意味で使われている。科学に関して他人と議論するという意味では、例えば学術雑誌に研究論文を提出することも含まれるが、一般にサイエンスコミュニケーションと言われるときには、一般市民が対話の相手として想定されている。

Wikipediaより

Akiko Saito. 2013.2.20

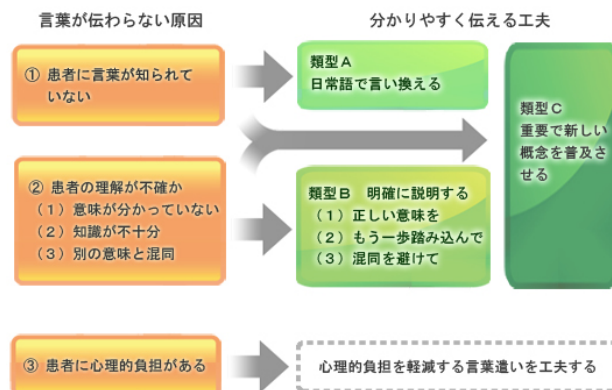
49

医療での試み

国立国語研究所は、国民の言語生活の実態をとらえ、そこに問題が生じていれば、改善に向けてどのような工夫を行えばよいか、提案しています。

医療の分野では、患者中心の医療の考え方が広まり、医療者は十分に説明をし、患者は説明を理解し納得した上で、自らの医療を選ぶことが求められています。ところが、医療者の説明に出てくる言葉が分かりにくいことが、患者の理解と判断の障害になっています。

この問題を改善するために、国立国語研究所は「病院の言葉」委員会を設置し、「病院の言葉」の分かりにくさの原因を探り、分かりやすく伝えるための工夫を、医療者に対して提案しました。



Akiko Saito. 2013.2.20

50

15. ウイルス virus

(**類型B-(1)**)正しい意味を明確に説明する

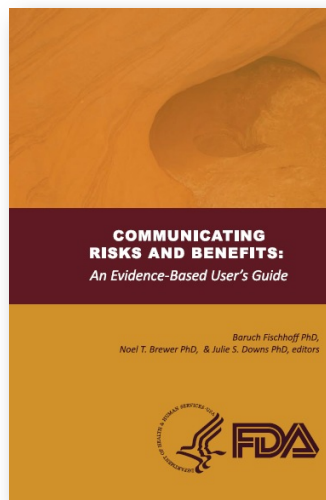
[関連] 抗生剤(こうせいざい)(**類型B**) 細菌(さいきん)(**類型B**) [複合] ノロウイルス(**類型B**) インフルエンザ(**類型B**)

- まずこれだけは
細菌よりも小さく、電子顕微鏡でないと見えない病原体
- 少し詳しく
「細菌より小さく、電子顕微鏡でないと見えない病原体です。抗生剤が効きません。」
- 時間をかけてじっくりと
「病原体の一種で、細菌よりずっと小さく、電子顕微鏡でやっと見えるくらいです。細菌は自分で増えることができますが、ウイルスはほかの生物の中で増えて、病気を引き起こします。細菌には抗生剤(抗菌薬)が効きますが、ウイルスには効果がありません」
- こんな誤解がある
細菌との区別が付かない人が多い(誤解率22.6%)。特に、ウイルスが原因である風邪に、抗生剤が効くと思っている誤解が多い(30.9%)。細菌には抗生剤が効くが、ウイルスには抗生剤が効かないことを説明する必要性は高い。
- 言葉遣いのポイント
1「ウイルス」という言葉の認知率は極めて高いが(99.7%)、その意味を正しく理解している人は意外に少ない(理解率64.6%)。意味が正しく理解してもらえるよう明確な説明を加えることが望まれる。
2「ノロウイルス」(→[複合語])「インフルエンザウイルス」(→[関連語]インフルエンザ)など、具体的なウイルスに即して説明することも効果的である。

Akiko Saito. 2013.2.20

51

エビデンスに基づく提言



August 2011.

Akiko Saito. 2013.2.20

52